

文化祭を終え、体育祭を目前に控えた中、2年生では「みんなで跳んだ」の学年道徳を実施しました。1つのことを題材に3つの考え方に分かれて、自分の考えを周りに話したり、他の人の考え方に触れたりしました。

中学2年生

内容項目：友情、信頼（B-8）

教材名：みんなで跳んだ

あらすじ：運動が苦手で、自分の意見がなかなか言えないAさんが、運動会の大縄跳び練習で何回も引っかかってしまう。予行練習の時、Aさんを外して跳んだら1位だった。本人の了承を得て、Aさんは当日応援係に。運動会の前日、「大縄跳びでAさんを外して跳ぶのは…やっぱりイヤです。」という意見が出る。「みんなで跳ぶ」か「入れないで跳ぶ」かの話し合いが行われる。

一緒に跳ぶのが平等なのか。

それとも外すのが思いやりなのか。



～生徒の振り返り・感想～

- ・マイナスな所を見つけるのではなく、プラスな所を探していこうと思った。
- ・みんなを信頼している、信頼しやすい雰囲気のクラスだったからこそ、安心して発言ができたのだと思った。
- ・失敗しても責めずに助け合えるクラスにしたいと思った。
- ・みんなで支え合って、楽しむことが大切だと思うから、これから何があっても、楽しもうと思った。困っている人がいたら、声かけようと思った。
- ・人それぞれ得意・不得意がある中で、それを責めたり、変に気を遣うわけではなく、そこを支え合って一緒に乗り越えていくことが大切だという考えを生かしていこうと思った。

- ・自分の意見を素直に出すことは難しいけれど、それを当たり前にするクラスにしたいと思った。
- ・どうしても人間は何かで不安になることはある。人に話せば少し変わると自分は思っているので、「1回勇気を持って話す」と、「きちんと聞く」というこの2つができれば、もっともっとよくなっていくのかなと思った。
- ・全員が完璧なクラスはないから、みんなで苦手なことを補って、最後まで笑顔でいられるような体育祭にしたいと思った。
- ・この授業を通して、「勝ちたい!」とかの感情だけではなくて、みんなで互いを理解し合って支えることが大切だと分かった。
- ・何かをして勝つことが全てではないということが分かった。人生においても、その場を支配するものだけにとらわれず、その範囲の外のことにも目を向けてみるのが大切だと思った。
- ・私もみんなの意見に合わせて、自分の意見は言わなかったけれど、この学校にも少しずつ慣れてきて、今ではきちんと自分の意見を言えるようになったから、登場人物の気持ちはよく分かる。
- ・自分がすることは、最終的には周りに左右されるものではなく、自分の気持ちが一番優先されることだと思った。自分で決めたことなら自信を持ってすることができると思った。

落語ライブ in 島本二中（全学年道徳）

内容項目：我が国の伝統と文化の尊重、国を愛する態度（C-17）

2025年11月7日（金）

出演：喜怒哀楽（磯村先生）

『社会人落語日本一決定戦』第九代チャンピオン

開演：13:30（5・6時間目）

会場：島本町立第二中学校 体育館

入場料：無料

